

最新鋭の発電技術の商用化及び開発状況(BATの参考表)に関する意見への回答について

日付	No.	意見	回答案
20140321	1	発電効率が高く、低品質炭も使用できるIGCCを導入していくべき。	区分Cに位置付けられている、40～50万kW級の商用規模のIGCCについては、今後東京電力が福島県において実証試験を行うことを発表しており、そこでの運転実績の蓄積や、コスト削減に向けた取組が期待されます。
20140418	2	(A)の50万kW級について、SCとしての熱効率が、USCの他の熱効率より高い数値となっております。一般にSCより蒸気条件が高いUSCの方が、他条件が同じであれば高い熱効率になるはずですが、50万kW級の熱効率は、何らかの条件が違うのではないかと考えます。一覧表にまとめるのであれば、極力同一条件にするか、補足説明が必要と考える。	区分Aについては、環境影響評価法が施行された平成11年(1999年)以降に商用運転を開始している発電設備の設計熱効率を整理し作成したものです。ただし、熱効率は立地条件(海水温や気温等)やレイアウト、燃料の性状、メーカー毎の詳細設計、周辺機器の性能等により変動するものであるため、この参考表に整理した設計熱効率は、あくまで目安であることを冒頭に記載させていただいております。